

令和元年度 事務事業総点検シート(1)  
[平成30年度事務事業]

一般会計		事務事業分類			詳細点検
事務事業名	道路構造物アセットマネジメント事業			シート番号	D 建設・整備事業
担当部署名	建設	局	土木	部	土木監理
				課	評価責任者(課長名)
					林

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	7	地域防災力の向上と災害に強いまちづくりの推進	有
	2	事業開始年度	平成 26 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	道路法			
	4	関連計画	堺市公共施設等総合管理計画			
5	事業実施の経緯	道路は、人の移動や物流にとって必要不可欠で最も基本となるインフラである。道路の老朽化については、平成26年4月に社会資本整備審議会道路分科会より示された「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言」においても具体的な取組みとして、メンテナンスサイクルの構築と実施が示されている。このメンテナンスサイクルを実施し市民及び道路利用者の安全・安心を確保するため、道路施設の適切な維持管理を進めていくものである。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input checked="" type="checkbox"/> 出先機関 (各地域整備事務所) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ( )		
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか。)	市民及び道路利用者		
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか。)	安全・安心で快適に通行できる道路機能を確保するため、計画的に点検と補修を実施する。		
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	計画的な道路の維持管理を行うため、道路を構成する構造物(ボックスカルバート、案内標識等)について個別施設計画を作成し、点検・診断・措置・記録のメンテナンスサイクルを実施する。 (参考:道路構造物と管理施設数) トンネル 2箇所(※) ボックスカルバート(大型) 6箇所(※) ボックスカルバート(小型) 32箇所 案内標識(門型) 71基(※) 案内標識(大型) 約 2,000基 道路照明灯 約 15,771基 (※は、道路法で定められる法定点検対象施設であり、H26年度を起点として5年に1度点検を実施)		
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (交付金・公共施設等適正管理推進事業債)			
		委託業務、工事発注の受注者			

Ⅲ. 投入量

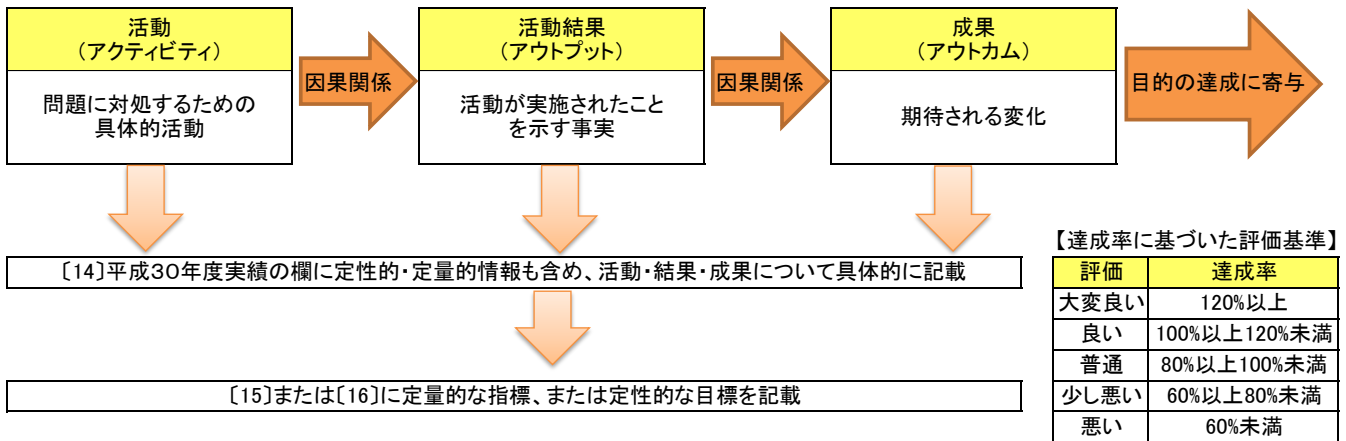
項目	単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
11 事業費 (a)	千円	20,412	41,670	129,585	229,400	
主な事業費内訳	国の点検要領に基づく定期点検	千円	11,999	5,432	9,882	44,800
	その他点検	千円	8,413	26,298	39,463	42,500
	修繕・更新工事	千円		9,940	80,240	142,100
		千円				
財源内訳	国・府支出金	千円	4,200	7,531	4,482	42,690
	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
	市債	千円		3,600	72,200	116,900
	その他( )	千円	0			
12 人件費 (b)	千円	16,400	24,600	53,300	52,650	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	36,812	66,270	182,885	282,050	

## 令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	道路構造物アセットマネジメント事業	シート番号	19-15
-------	-------------------	-------	-------

### ≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

#### ロジックモデルの考え方



#### 事業の活動内容や成果

平成30年度実績								
活動実績と成果	14	<p>平成25年6月の道路法の改正を受け、道路施設の定期点検が義務化されたことを受け、平成26年度～平成30年度において、各道路施設の点検要領に基づく点検や健全性の診断を行い、計画的に修繕・更新を実施している。平成30年度は、案内標識(大型)や道路照明灯の点検に加え、補修や建替を実施した。 (平成30年度実績) 点検: 案内標識300基、道路照明灯558基 建替: 案内標識4基、道路照明灯129基</p>						
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		道路法で定められる法定点検対象施設の点検数の進捗率(トンネル、ボックスカルバート(大型)、案内標識(門型))		目標値	100	—	—	41
				実績値	100	—	—	
				達成率	100%	—	—	
			評価	良い	—	—		
		算出方法・設定根拠など						
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			目標値					
			実績値					
			達成率					
			評価					
		算出方法・設定根拠など						

#### 業績の分析

17	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
	道路構造物の点検を行い、個別施設計画を策定し、計画的に修繕工事を実施するための調整ができたため。

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。